

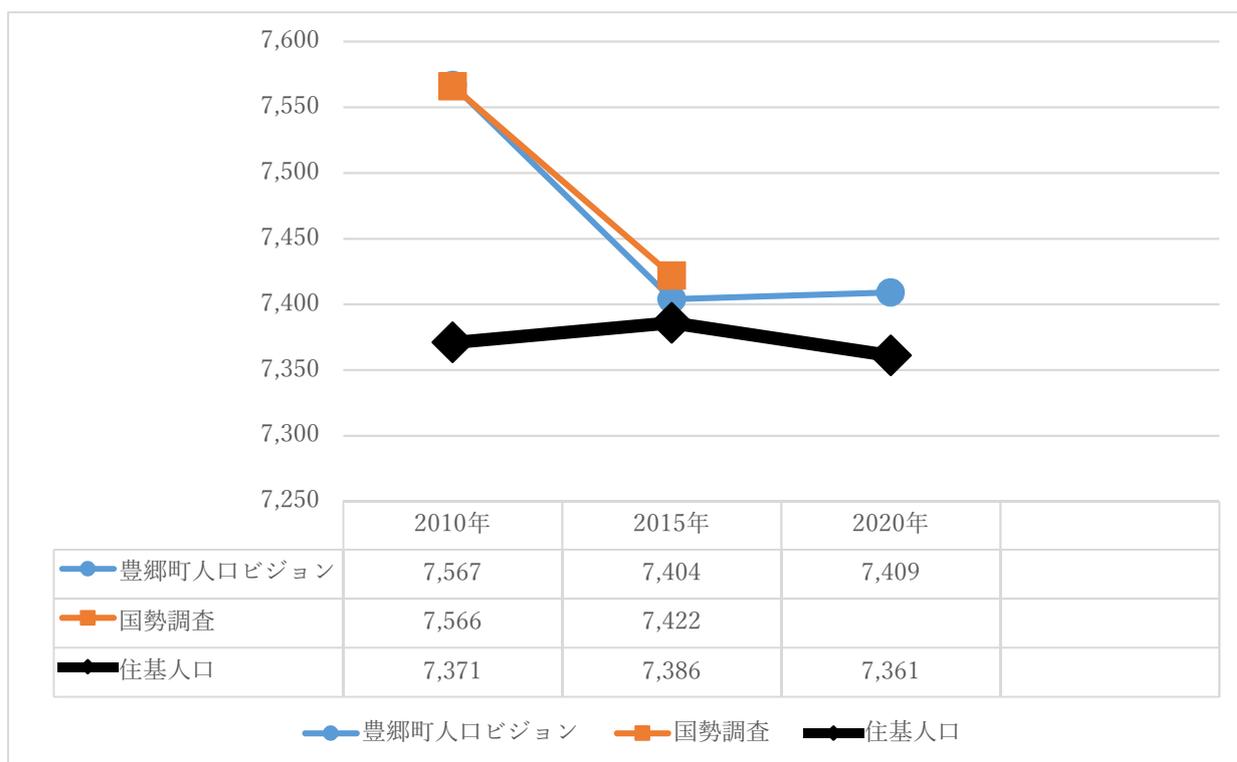
豊郷町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略実績取りまとめについて

1.人口ビジョンについて

①豊郷町の人口推移について

町の人口については、下図【豊郷町の人口推移比較(人口ビジョン・国勢調査・住基人口)】のとおり、国勢調査と住基人口に差が見られ、2020年国勢調査がまだ実施されていないため、単純比較できないが、豊郷町人口ビジョンでは2020年は2015年に比べて「増」を見込んでいるが、2020年4月1日現在の住基人口としては「減」である。

【豊郷町の人口推移比較(人口ビジョン・国勢調査・住基人口)】10月1日現在 (人)



※住基人口 2020 年の数値は 6 月 1 日現在

②豊郷町の人口推移と国、県との比較について

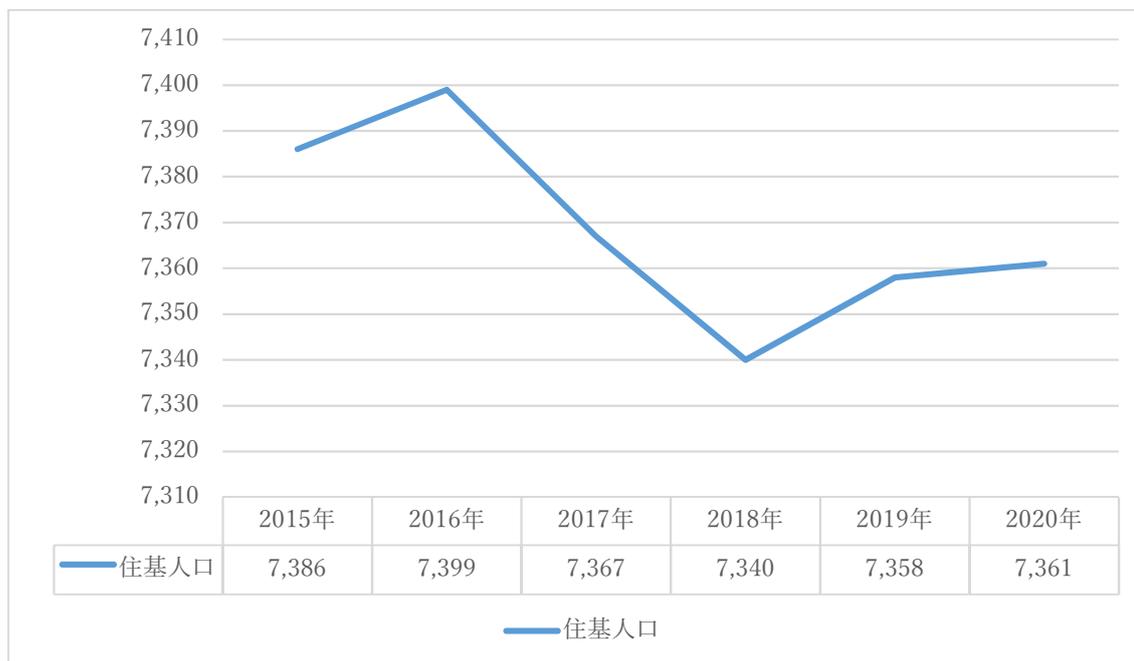
まず、町の人口推移をより細かく分析するに際し、毎月データが算出される、住基人口を活用する。

下図【豊郷町住基人口推移】のとおり減少傾向とも言えるが、いずれも 7,300 人台であるため、大きな変化があるとも言いがたい。

国、県の人口(いずれも国勢調査をもとにした人口推計)と比較すると、下図【日本人口、滋賀県人口との比較(前年増減割合)】のとおり、国においてはわずかながら減少傾向にある。県と豊郷町については減少傾向とは言いがたいが、豊郷町はやや増減に幅がある。

【豊郷町住基人口推移】各年10月1日現在※

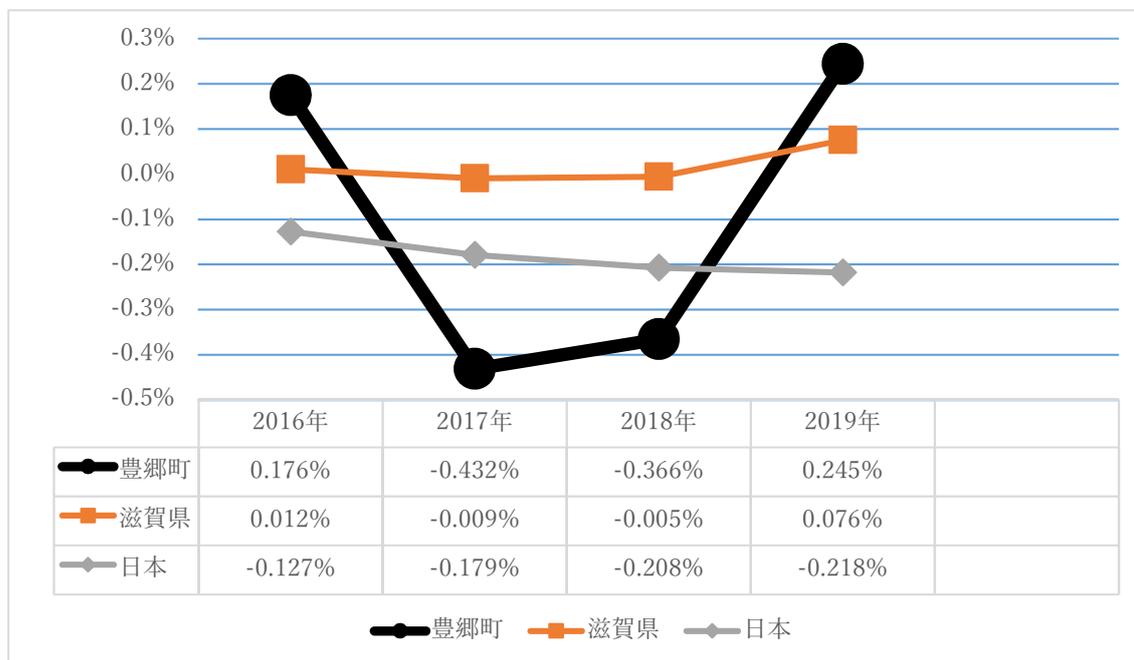
(人)



※住基人口 2020 年の数値は 6 月 1 日現在

【日本人口、滋賀県人口との比較（前年増減割合）】各年10月1日現在※

(%)



※日本人口については、総務省統計局ホームページ参照、滋賀県人口については、滋賀県統計課からの報告参照

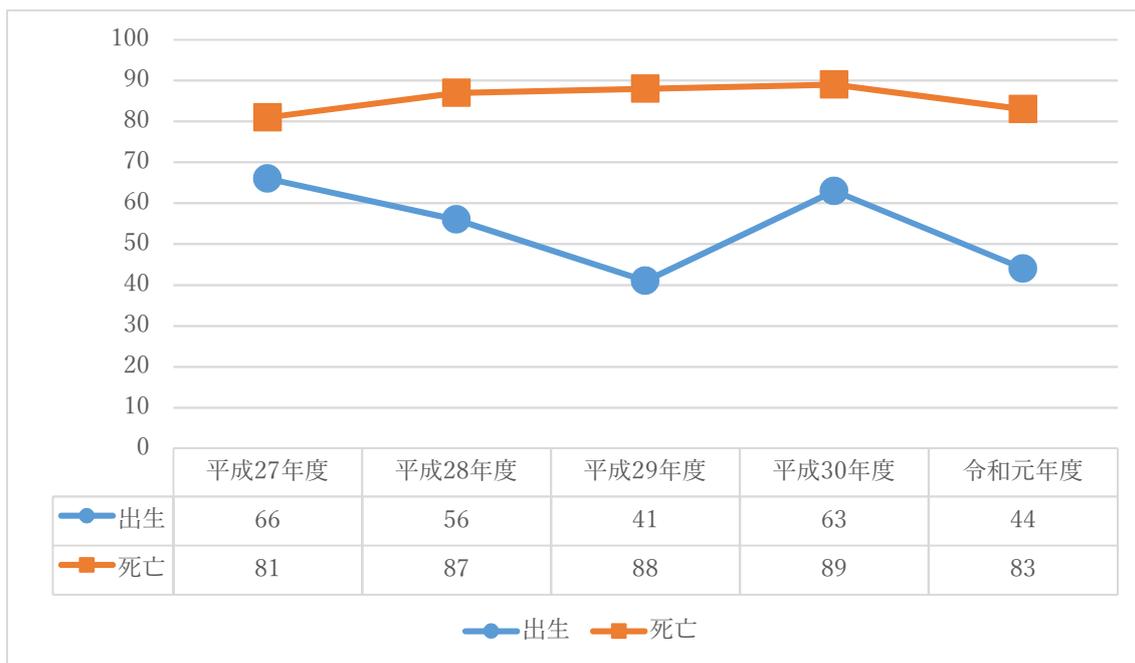
③人口動態について

下図【自然動態】のとおり、死亡者が増えており、出生は増減を繰り返している。死亡が出生を毎年上回るため、少子高齢化の影響が如実に出ている

また、下図【社会動態】は転入者が平成27年度は特に多かったが、以後は増減を繰り返している。転出者は大きくは変わらない直近2年間増加傾向。5年間では転入者が転出者を上回っている。

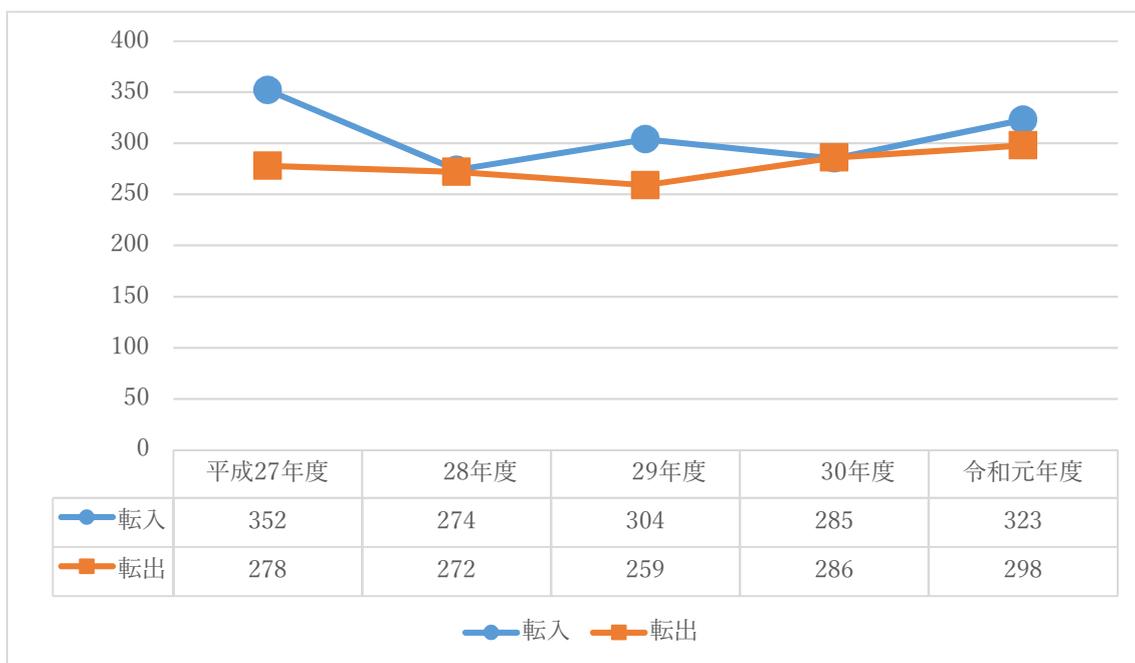
【自然動態】各年度

(人)



【社会動態】各年度

(人)



※豊郷町住民基本台帳参照

2.総合戦略について

(豊郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略重要業績評価指標 (KPI) の実績値参照)

①基本目標1「特産物や「ひと」を活かす産業振興」について

○農業の担い手数 21人 (H26) →20人 (R1)

○農地を担い手へ集積させる 40% (H26) →68% (R1)

「農業の担い手数」については、減少。高齢化や後継者不足の問題を解決できなかった。
「農地を担い手へ集積させる」については、KPIの数値(70%)には届いていないが、事業としては進んでいる。緑あふれる豊郷町の風景を保全するという意味では進んでいるが、今後も、高齢化や後継者不足への対応に課題がある。

②基本目標2「豊郷町へのひとの流れをつくる」について

○社会増減数年平均12人増を維持する (H27～R1)

社会減平均 (H27～R1) 278.6人

社会像平均 (H27～R1) 307.6人

平均29人増

社会動態の特に社会増についてはKPIの数値(314人)を超えることはできなかったが、社会減についてKPI(302人減)について達成できたため、全体的な目標を達成できた。社会増は増減を繰り返しており、特に傾向として定まっていないが、社会減は平均を下回る数字で推移している。定住化の促進に関する事業(外出支援事業等)が効果を発揮していると思われる。

③基本目標3「豊郷で結婚・出産・子育てをする人を支援する」について

○【数値目標】子どもの数(0～18歳)、1,390人以上 (R1)

子どもの数 (R1) 1,415人 (住民基本台帳)

数値目標を達成しているが個々の事業で見ると、KPIの数値を達成できていない項目が多いが、子育て世帯の支援と子育て環境整備事業(福祉医療費助成、給食費助成等)による部分が大きいと思われ、結婚、出産支援や子どもの教育の充実面でKPIを達成できるようなのであれば、より少子化に対応できる余地がある。

④基本目標4「資源を活かした交流と、いきいき安心な暮らしづくりを進める」

○【数値目標】町での居住継続を希望する人の割合（76.8%）を超えること（R1）

現状、令和元年度時点のアンケートはとっていないが、各種KPIで効果測定を行っている。「いきがい協働センター」サロン年間利用回数、防災訓練参加者数、自治会での防災士資格取得者数についてはKPIの数値を達成できていなかった。また、江州音頭保存会会員数について、KPIは達成しているが、「江州音頭発祥の地としては会員数が少ない。」といった意見もあった。

「③基本目標3」の項目にもあったように、転出者の増加を抑えている（居住を継続している）ことから、④基本目標4についてもある程度、成果は出ていると考えられる。

総括

平成27年度から令和元年度まで5年間の計画期間中、全国的な人口減少傾向の中、豊郷町の社会動態については「子育て世帯の支援と子育て環境整備」に関する事業（福祉医療費助成事業、給食費助成事業など）の成果により子育てしやすいまち、ひいては住みよいまちとなっていると考えられることから、転出者を抑えることができ、増加となっている。続いて、自然動態については、出生数は5年間の数値がKPIに大きく届かなかったこと、死亡数が出生数を毎年度上回っていることから、各種施策を実施しているものの、減少を抑えることができなかった。その結果、豊郷町の人口は増減を繰り返しながらも、一定、横這いに近い状態を維持している。

今後は、結婚の支援や出産の支援をより充実させるとともに、平成30年度に策定した「第5次豊郷町総合計画」にあるように、子育て環境の強みを活かす、

まちの魅力と活力を向上させる等、「一生青春 みんなで安心 元気なまち」を実現させ、住みたいまち、住み続けたいまちとして展開していくことで、総合計画の目標年次である 2028 年には人口 7,300 人を維持できるよう事業を行っていき、人口減少、少子高齢化の波に立ち向かっていく必要がある。